

ステークホルダーとの価値共創に向けて

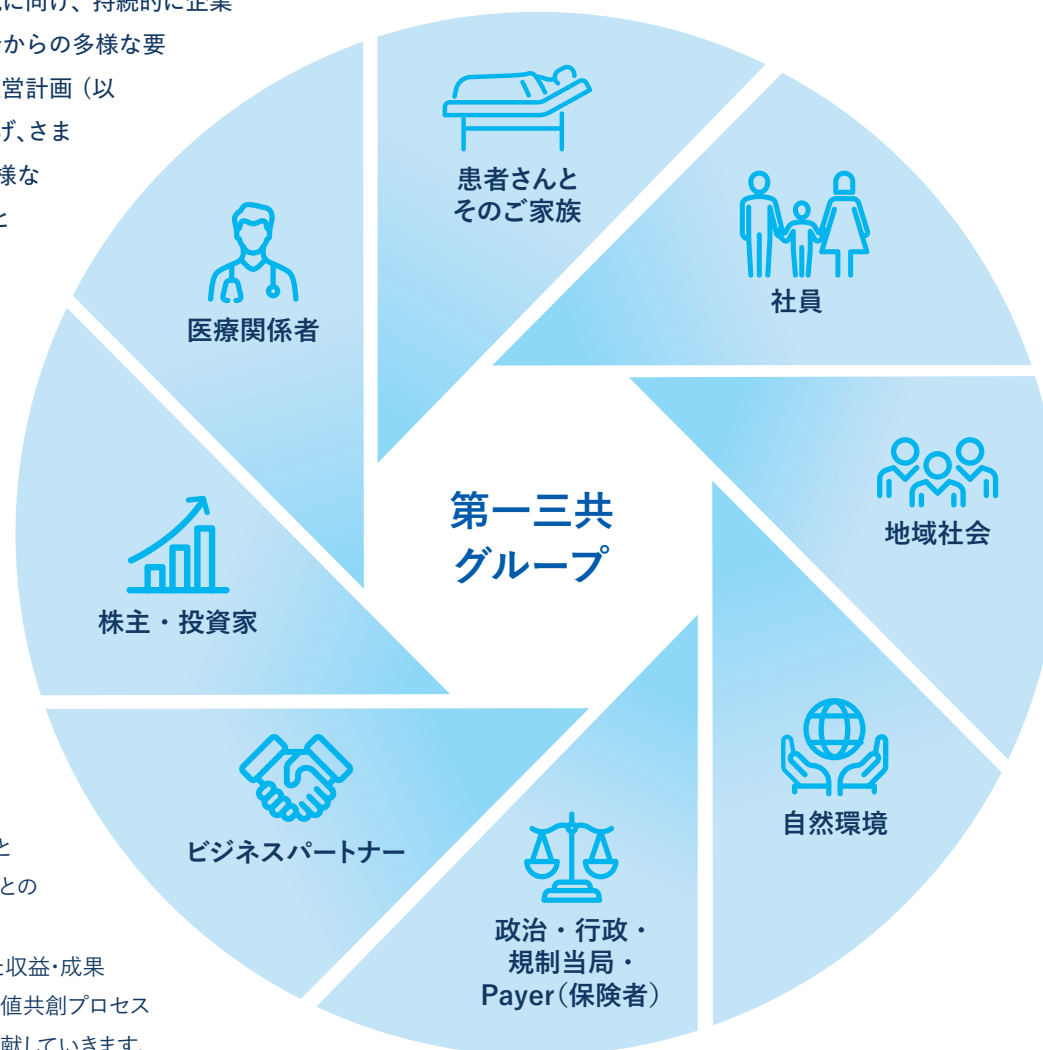
当社グループの「世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」というパーパスの実現に向け、持続的に企業価値を高めていくためには、アンメットメディカルニーズをはじめ、変化し続ける社会からの多様な要請を把握し、企業活動に反映させることが必要不可欠です。当社グループ第5期中期経営計画（以下、第5期中計）において、「ステークホルダーとの価値共創」を主要な戦略の一つに掲げ、さまざまなステークホルダーとの対話を積極的に行っています。対話を通じて把握した多様な価値観に基づく期待やニーズを、当社グループが取り組むべきサステナビリティ課題として経営戦略に統合し、事業活動と一体となって取り組むことで、第一三独自の価値を創出していきます。

ステークホルダーとの価値共創プロセス

社会の中で持続的に成長し、中長期的に企業価値と社会的価値を向上していくためには、患者さんとそのご家族、社員、地域社会、自然環境、政治・行政・規制当局・Payer（保険者）、ビジネスパートナー、株主・投資家、医療関係者などのさまざまなステークホルダーとのコミュニケーションが重要です。

当社グループは、ステークホルダーと積極的に対話を行い、当社グループに期待される社会からの要請・期待を認識し、事業活動を通じて応えていくことや、当社グループの取り組みや考え方をご理解いただけるような活動を通じ、社会からの信頼を得られる会社を目指しています。加えて、当社グループを取り巻く各国・地域の法令・規制の遵守にとどまらず、各種の国際規範および多様な文化や慣習を尊重することで、ステークホルダーとの関係構築・維持に努めています。

そして、こうしたマルチステークホルダーとの協働を通じた価値共創によって生み出された収益・成果を適切に分け合っていくことが、社会の持続的な発展に資するものと考えています。この価値共創プロセスを持続させ、その質と規模を高めていくことで、企業価値と社会的価値の双方の向上に貢献していきます。



Case study

事例 1

社内コミュニケーションの活性化

「経営情報の理解・浸透」および「組織・社員がグローバルに一体となって挑戦する風土の醸成」を目指し、社内コミュニケーションの活性化に取り組んでいます。グローバル全社員向けのウェブ社内報『PATIO』を随時掲載するとともに、社内ポータルサイトに映像・画像を活用した経営メッセージ、全社表彰の受賞者、新入社員によるメッセージなどを紹介しています。また、社内掲示板「経営陣の日常部屋」では、経営陣からの気軽な発信、ビジョンや戦略に込めた思いや日々のアイデアを発信し、社員からのいいね・コメント等のリアクションが見えるコミュニケーションを実施しています。同掲示板「Hot Topics」では、各部門のさまざまな活躍や社内のユニークな活動が共有されています。また、グループの各拠点を訪問する経営キャラバンや全社員を対象としたグローバルタウンホールなど、経営陣と社員の双方向コミュニケーションを行うとともに、第5期中計の進捗確認および達成に向けた積極的な社内コミュニケーションを実施しています。



事例 2

投資家とのサステナビリティダイアログ

従来の財務情報を中心としたコミュニケーションに加え、機関投資家との面談などの際に、ガバナンスや医療アクセス、環境問題への取り組みなど、サステナビリティに関するテーマで対話を行う機会が増えているため、建設的な対話につながる、充実した未財務情報開示に取り組んでいます。2024年12月、機関投資家、証券アナリスト、報道関係者を対象に、4回目となる「サステナビリティに関する意見交換会」(旧ESG説明会)を開催しました。本意見交換会は、2024年9月に発行した「バリューレポート2024」を活用し、当社グループの経営に対する理解を深めていただくとともに、投資家等の皆さまからのご意見を今後の経営に活かし、持続的な価値創造へとつなげることを目的としています。今回も引き続き対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催し、ご参加いただいた多くの方々と活発な意見交換を行いました。社内取締役、社外取締役が登壇し、サステナビリティ経営や人的資本に関する考え方に加え、当社グループの最大の強みである「サイエンス&テクノロジー」および「ガバナンス」にも焦点を当て、それぞれの具体的な取り組みについて説明を行い、投資家の皆さまから貴重なご意見をいただきました。

